

優 秀

## 身近な福祉について

中央中学校 2年

一本鎗いっぽんやり

優来ゆうな

私たちは普段、特に何の問題もなく暮らしています。しかし、その生活は「あたり前」ではありません。それぞれの町などで、福祉に取り組まれているおかげで、私たちは安全に楽しく暮らすことができます。

「福祉」ときくと、「難しそう」や、「障害者の為の…」と思う人が多いと思います。実際、私もそうでした。しかし、それは違います。福祉は障害のある方のためだけに限ることはありません。福祉は、生活の身近なところに存在しています。

例えば、保育園、地域のお祭り、回覧板、点字ブロック、電車の優先席などです。

それぞれの地域では次のような活動も行っています。

地域住民で組織された団体で、祭り、清掃などをする、「町内会活動」。これが私たちに一番近い福祉だと私は考えます。実際に参加したことがある人も多いのではないのでしょうか。

住民の暮らしの相談を受け、必要な援助を行うボランティアの「民生委員・児童委員」。直接的に関わることは少ないかもしれませんが、この活動によって私たちの生活はより良いもの変わっていくのです。

企業も社会の一員として、募金、その企業にしかできないことを考え、寄付などをする、「企業の社会貢献活動」。赤い羽根募金などもその一部で、私たちにも関係している活動です。

私たちの身近な人が身近な場所で活動に取り組んでいることが分かったと思います。もちろん、福祉はこれだけではありません。障害のある方や、お腹に赤ちゃんがいる方など、生活に不自由がある人へ

の生活の工夫もされています。

例えば、信号機の音、点字ブロック、スロープなどです。普通に生活できる人は、あまりあてにすることがない、信号機の音や、点字ブロックなどもとても重要な役割を果たしています。私も実際に視覚に障害のある方のように前が見えないようにして歩いてみると、ほんの少しの段差にもつまづきそうで、これが町になったら、もっと恐怖が増すことを実感しました。

では、私たちにできる福祉はないのでしょうか。地域のお祭りに参加することも福祉に入るのなら、もっと生活の中に自分の特技や好きなことを活かしてできる福祉があると思います。

私たちは気づかないうちに福祉に参加しています。しかし、一人一人が自分が福祉に参加する、という自覚を持ったら、町はもっと良くなると思います。だれかに安全に楽しい町をつくってもらうのではなく、自分で町をつくっていくことが大切だと思います。

